

式 辞

校舎から眺める日光連山の輝きも、仄かに霞みだし、寒さの中にも春の兆しが訪れてまいりました。雄々しい古賀志山も、今日は穏やかな表情で卒業生の旅立ちを祝ってくれているような気がいたします。

本日ここに、同窓会副会長様、PTA 会長様をはじめ、多くのご来賓の方々、保護者の皆様のご臨席を賜り、平成27年度・第31回卒業式が挙行できますことは、卒業生はもとより、本校職員・在校生一同大きな喜びとするところであります。

ただ今、鹿沼東高等学校の全教育課程を修了した237名の皆さんに卒業証書を授与いたしました。入学以来、たゆみない努力を重ね、自己研鑽に励み、人格形成においても成長を遂げてきた卒業生の皆さんに、教職員を代表し、心よりお祝い申し上げます。そして、わが子の成長を願い、慈しみ育ててこられた保護者の皆様、お子様のご卒業誠におめでとうございます。この三年間、本校の教育にご理解をいただき、様々な場面でご協力、ご支援下さいましたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

卒業生の皆さん。壇上から見る皆さんの表情からは、この3年間の満足感や達成感、みなぎる自信が見て取れます。授業における真剣な眼差し、部活動に一途に取り組む様、熱気に沸きかえる学校行事と清々しい笑顔。就職試験や入学試験への集中力。様々な場面における皆さんの姿に、活力と潤いのある本校教育の素晴らしい伝統が息づいておりました。

これから先行きの見えない時代に、皆さんは社会に出て生きていくことになります。

ある国内民間研究所は、10から20年後に国内労働人口の49%に当たる職業について、人工知能やロボットで代替される可能性が高いという推計を、昨年12月に発表しました。

驚くべき速さで進展する科学技術、情報技術の革新、経済環境の変化などが、社会構造や雇用環境を大きく変えていくと考えられ、そのような変革は、新たな価値や、課題解決のための知恵を生み出すとともに、対立や紛争、貧困等の問題をもたらす背景ともなり得ます。

そのため次代を担う若者には、新たな資質能力を身につける必要性が説かれ続けています。

しかし、グローバル化という国際競争のもとで、経済性や効率性を追求するあまり、私たちは大事な能力を失いつつあるのではないのでしょうか。少し前までの日本人は、衣食住を自分たちの手で賄えるような、生きていくための高い総合力を備えた人たちでした。一方、現代の働き方、暮らし方は極端に専門化、細分化され、専門外のことがブラックボッ

クス化する世の中になっています。情報は人からでなく情報端末から得て、興味の無いこと、専門外のことについては、価値判断まで平気で他者に委ねるようになった結果、人や地域との繋がりに対しての関心を薄め、自然に対しては畏敬の念が薄れ、結果的に地球環境までをも痛めつける状況になっているのではないかと危惧しています。

皆さんは、18歳で選挙権を持ったはじめての世代となります。何が真理であるか見極める目を養い、次世代に恥じることのない世の中を引き継いでいくという大切な役割が皆さんにはあることを忘れないでください。

例えば、皆さんを育ててきたこの鹿沼市をはじめとする地域、栃木県、そして日本には優れた歴史、文化があります。しかし、人口減少と高齢化の急速な進展により、我が国はかつてどの国も経験したことのない状況に直面すると言われています。地域においては、活動の担い手不足により活力の低下が懸念されており、私たちには、「これから持続可能な社会をどう構築するのか」という大きな課題が与えられています。

先人の残してきた素晴らしい伝統を維持、継承していくことは大変重要なことです。それと同時に、伝統を守るだけではなく、「自分たちは何を残すのか」「どのような社会を創っていくのか」ということも考え続けていただきたいと思います。

本校を巣立っていく卒業生の皆さん、皆さんがこれから活躍する場所は、様々でしょう。しかし、どのような場所にいても、「今を生きる。今に全力を尽くす」ことを忘れないでください。過去を嘆き未来を憂うのではなく、過去の余韻や未来への希望を行動の原動力としながらも、今、目の前にあることに全力を尽くす。その積み重ねこそが大きな果実をもたらすものと思います。ドイツの哲学者ニーチェは、「足下を掘れ。そこに泉あり」という言葉を残しています。あっちに行けば水が出ないか、向こうに行けば井戸が湧かないかと思いがちですが、大事ななのは自分の足下です。与えられたことを、地道にコツコツとやり続けた先に、自分にしか到達できない泉があるものです。

これは、まさに「流汗悟道」の教えであり、本校での学びそのものであります。どのような時代を迎えることとなったとしても本校で過ごした日々は、必ず、皆さんの人生の折々で成長の糧となるでしょう。そして、各々の目指すところに向かって羽ばたいてください。

高い塔に登ったときに、初めて見ることのできる景色があります。塔に、はしごを架けようという意欲を失わず、一生学び続けていってください。

皆さんのこれからの歩みが、幸せで豊かなものとなることを祈って、式辞といたします。

平成28年3月1日

栃木県立鹿沼東高等学校長 大森 亮一